

1 聖心幼稚園の教育目標

- (1) 規則正しい生活習慣を身につけ、健康な心と体を育成する。
 (2) 知育・徳育・体育を重視した教育活動を通して、個性を伸ばし、創造性を高める。
 (3) 自己創造と個性開花を目指す、生き生きとした幼児教育をすすめる。

「個性を伸ばし、創造性を高める」

- 美的感覚を養う
- リズム感を持ち 正しい音感を身につける
- 正しい文字をおぼえる
- 国際感覚をもつ
- 基礎体力をつくる

—— 生き生きとした幼児教育 ——



<めざす子どもの姿>

- 温かい心を持つ優しい子ども
- ねばり強くやり抜こうとする子ども
- 笑顔いっぱいの生き生きとした子ども



2 令和元年度の重点目標と具体的な計画

- (1) 身近な人々や自然・動植物との関わりやふれあい、絵本の読み聞かせ等を通して、豊かな人間性を育てる。
- ・ 自然環境を生かし、年間を通して身近な草花や生き物にふれることで、自然の素晴らしさに気づかせる。
 - ・ なかまと遊ぶことを通して、他の園児との関わり方を学び、一緒に遊ぶことの楽しさを感じさせる。
 - ・ 年間を通して絵本の読み聞かせを行い、創造力を豊かにさせる。
- (2) 「特別指導」で園児の興味や関心を引き出し、表現力や個々の能力を高める日々の活動を通して、「学びの基礎」を身につける。
- 英 会 話…楽しいアクティビティを通して、自然に英会話に慣れ親しむ。
 - 絵画・造形…美的感性や創造力を育み、進んで表現する。

- 音 楽…楽しく歌を歌ったり、楽器を演奏したりして音感とリズム感を養う。
- 体 操…いろんな体の動きを経験し、楽しく基礎体力をつくる。
- 習 字…日本文化に親しみ、鉛筆や筆の正しい持ち方、書き方を学ぶ。

3 評価項目とその達成状況

卒園後に学ぶ小学校は、学びがゼロからスタートするわけではなく、幼児教育で身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、子どもたちの資質や能力を伸ばしていく時期である。このことから、卒園児が小学校でスムーズなスタートを切れるようにするために、幼児期にどのような資質や技能などを育む必要があるのかという視点で、日々の保育を振り返ることも必要である。

そこで本年度は、改訂された「幼稚園教育要領」を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を当園の教育課程及び園児の様子と照らし合わせ、評価項目とした。

評価項目		評価	評価所見
幼 児 期 の 終 わ り ま で に 育 っ て ほ し い 1 0 の 姿	①健康な心と体	A	特別指導（体操）などを通して、体を動かす様々な活動に意欲的に取り組み、根気強くやりぬこうとする場づくりをしている。衣服の脱着や排泄、食事など自分のできるように保育者が日々見守り、声掛けしている。
	②自立心	B	信頼する先生や友だちに応援されながら、物事を最後まで粘り強く行うことで、自分の力だけでやり切ろうとする気持ちや、やり遂げた達成感を味わうことができる。子どもたちは他人の指示で動くことが多く、今後、自ら工夫したり考えたりして行動する経験をサポートしていく必要がある。
	③共同性	A	子どもは友だちと関わる中で、嬉しい、悲しい、悔しいといったさまざまな感情を味わう。また、相手の良さに気づくこともできる。年長組は共同制作として、みんなで作品を仕上げることで協力する楽しさを味わい、充実感を感じることができた。発表会ではどのクラスもみんなで力を合わせて立派に発表をした。
	④道徳・規範意識の芽生え	A	子どもは友だちと様々な体験を重ねていくことで、してよいことと悪いことの違いが分かり、自分の行動を振り返れるようになってくる。トラブルがあれば、担任が丁寧に話を聞き、どうすればよかったのかを子どもに考えさせ、しっかりと振り返りをさせている。バス待ちの時間やお誕生会など、異年齢の子どもたちが一緒に遊ぶ機会があり、たてわりの集団で活動する機会も多い。
	⑤社会生活と関わり	B	両親や祖父母など、家族から愛されていることに気づくと、子どもは家族を大切にしようとする気持ちを持つようになる。家族や地域などとのつながりを深められるように、活動を工夫することが必要である。

幼 児 期 の 終 わ り ま で に 育 っ て ほ し い 10 の 姿	⑥思考力の芽生え	B	毎年、年長児は身近な自然探しや生き物の飼育などで、発見することを楽しんだり、考えたり、振り返ったりして、自分で考える活動をしている。どのクラスでも、指導計画の中に発達段階に応じた子どもの好奇心や探究心を引き出すような活動を工夫し、子どもたちそれぞれが多様な考えを発見できるようにすることが大切である。
	⑦自然との関わり ・ 生命尊重	A	子どもは生き物と共に遊んだり、世話をしたりする中で、生命の不思議さや尊さに気づき、命あるものとして大切にすることをもちて関わるようになる。毎年、アサガオを植えたり、サツマイモ堀りをしたり、どんぐり拾いや昆虫館見学など自然と触れ合う機会を設けている。
	⑧数量・図形、文字等への 関心・感覚	B	遊びや生活の中で、数を数えたり、比べたり、組み合わせたりすることを通して、数量・図形等への関心・感覚が高まるようになる。ひらがなの練習もしているが、書く練習だけでなく、そのひらがなが入っている言葉探しをするなどの工夫をすることで、より子どもたちの身近なものになる。図形や数についても、子どもたちの身近にあるものと関連付けることで、より意欲的に取り組むことができると思われる。
	⑨言葉による伝え合い	B	保育者や友だちと心を通わせ、絵本などに親しみをもつことで、豊かな言葉や表現が育まれていく。毎日行っている昼食後の絵本の読み聞かせでは、子どもたちは想像力を働かせて、夢中になってお話を聞いている。どんな話だったのかを振り返って、みんなの前で発表するなどの機会を持つことで、相手に伝わるように言葉で伝え、相手の話もちょうんと聞いて理解するという経験を重ねることができ、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
	⑩豊かな感性と表現	A	子どもは、日々の生活の中で心を動かされることに触れることで、自由な感性で想像を膨らませながら、自分の気持ちのままに表現を楽しむようになる。実物を見たり、触ったりしながら絵に描いたり、みんなで歌を歌ったり、合奏したりして、豊かな感性を育てている。また英語に慣れ親しむ活動や書写を通して、幅広い表現方法を体験している。
教 育	生き生きと活動する 特別指導	A	幼児期は感性の発達が最も著しい時期であり、その感性を十分に引き出せるように特別指導に力をいれている。英語（英会話）、音楽、書道、絵画、造形、体操の専門講師による楽しい適切な指導により、子どもたちは毎日、生き生きと活動している。新しく着任したネイティブによる楽しい英会話レッスンは子どもにも保護者にも好評である。来年度から音楽

課程の編成及び指導計画の充実			の指導者も変わり、さらに充実した特別指導レッスンになることを期待している。
	絵本の読み聞かせ	A	ほぼ毎日昼食後に行っている絵本の読み聞かせでは、目をキラキラさせながら絵本の世界に入り込んでいる子どもたちの姿を多く見ることができる。この絵本の読み聞かせを通した学びは、子どもたちの豊かな感性を育て、創造力を広げることにつながっている。
	遊びを通した学び	B	幼児は友達との遊びの中で、いろいろなことを学び、日々成長している。特に初めて集団活動をする園児は遊びを通して人との関わり方を学んでいく。日常的にトラブルも起こりがちだが、「喧嘩をしても仲直りができる」という体験の積み重ねが、思いやりの芽を育てていく。また、幼児は目の前にあるいろいろな物を仲間と一緒に動かしたり、操ったり、作ったりしながら創造的な遊びの世界を楽しんでいる。このような活動の中から自主性や主体性が育まれていく。保育者は園児の安全確保に留意しながら見守り、主体性を引き出す声かけや働きかけ、場づくりを工夫することが必要である。

★評価項目の評価基準

A	十分に達成されている。
B	達成されている。
C	取り組まれているが、成果が十分ではない。
D	取組が不十分である。

4 総合的な評価所見

当園では、各園児はそれぞれ成長の度合いに個性があることを踏まえ、園児にとってより良い環境を整え、一人ひとりを大切にしたいと、粘り強い指導を積み重ねている。当園の特色である少人数指導を生かして、各担任（複数担任）の配慮と支援が行き届いていることから、各園児の発達段階に応じた順調な成長を見ることができている。「幼稚園が楽しい」、「幼稚園に行くのが楽しみだ」という園児が増えるのに伴い、保護者からの信頼を得られていることを実感できるようになってきている。

特色ある教育活動である「特別指導」については、発達段階を踏まえた一年間の適切な指導を継続することで、楽しみながら学びの基礎を身につけてきている。学ぶことが楽しいという園児を増やすことができているが、今後もマンネリ化にならないように、それぞれが行ってきた指導内容や年間カリキュラムをチェックし、より良い特別指導になるように工夫していくことが大切である。

幼児は友達との遊びの中でいろいろなことを学び、日々成長していく。数年後の小学校入学を見据えて、意欲的で主体的に活動できる子どもを育成するために、さらに充実した遊びの時間を確保し、創造的な遊びの世界を楽しませるように工夫することが必要である。

今後も全ての教育活動を通じて、より良い生活習慣を身につけ、個性を伸ばし、創造性と主体

性を高める、生き生きとした幼児教育を進めていきたい。

5 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	安全管理	新型コロナウイルスの感染防止について話し合い、様々な場面で3密を減らし、うがいと手洗い、換気、消毒などをこまめに行う。毎日の体温測定、マスクの着用などは保護者の協力を得られるよう注意喚起をしていく。
2	発表会等の内容検討	クリスマス会や音楽英語発表会のプログラム、オペレッタなどの内容・準備・進め方について、特別指導の指導者との打ち合わせの時間をとり、幼稚園がリーダーシップをとって進められるようにしていく。